

予 算 要 求 資 料

令和8年度当初予算

支出科目 款：総務費 項：企画開発費 目：企画調整費

事業名 魅力発信事業費

(この事業に対するご質問・ご意見はこちらにお寄せください)

現代陶芸美術館 総務部 管理調整係 電話番号：0572-28-3100(内103)

E-mail：c21802@pref.gifu.lg.jp

1 事業費 1,701 千円 (前年度予算額： 2,432 千円)

<財源内訳>

区 分	事業費	財 源 内 訳							
		国 庫 支出金	分担金 負担金	使用料 手数料	財 産 収 入	寄附金	その他	県 債	一 般 財 源
前年度	2,432	0	0	0	0	0	0	0	2,432
要求額	1,701	0	0	0	0	0	0	0	1,701
決定額	1,701	0	0	0	0	0	0	0	1,701

2 要 求 内 容

(1) 要求の趣旨 (現状と課題)

岐阜県現代陶芸美術館は、東濃の地にあつて地元に根付いたやきものに特化した美術館であるが、世界の現代陶芸を収集する特色ある美術館でもある。その魅力をやきもの愛好家に限らずより広く紹介するために、幅広いジャンルから講師を呼び、講演会・対談・座談会、ワークショップなどを行うことによって、近隣のみならず遠方、ひいては海外からも新しい来館者を集め、観光振興に努める。また、幅広いジャンルの催事開催を通じて、当館が地元の陶芸文化や陶磁器産業への刺激となること、新たな創造のきっかけとなることを目指す。

(2) 事業内容

①講演会・対談・座談会 (トークイベント)

陶芸を他ジャンルとの交流や、歴史・文化のより広い観点などから捉えるために、各方面の専門家を呼んで講演会・対談・座談会等のトークイベントを行う。

②ワークショップ

デザイナー、美術家、音楽家等、陶芸以外のジャンルから講師を呼び、美術館の施設や作品を使ってワークショップや実演を行う。

③企画展やコレクション展示との連携

ワークショップ、講演会を企画展などの作品展示と関連付けることによって、事業の魅力を知らせて誘客をはかる。

3 事業費の積算 内訳

事業内容	金額	事業内容の詳細
報償費	200	講師謝金
旅費	248	打合旅費、講師費用弁償
消耗品費	100	消耗品代、材料費
会議費	12	講師昼食代
役務費	90	郵送料、保険料
委託料	855	ワークショップ・実演委託、広告委託、印刷物作成委託
使用料	196	会場借上料
合計	1,701	

決定額の考え方

--

事業評価調査書（県単独補助金除く）

新規要求事業

継続要求事業

1 事業の目標と成果

（事業目標）

・何をいつまでにどのような状態にしたいのか

「ぶらり立ち寄る」県民の憩いの場となる美術館を目指して、地域振興・観光誘客に貢献する。

これまで、陶芸の魅力を広く周知させるために陶磁器に関わる様々な催事を開催してきたが、新たな文化振興、誘客をはかるべく、多様なジャンルとの交流をテーマに講演会やワークショップ等を行い、近隣のみならず遠方から新しい来館者を集めて、陶芸の魅力を広く拡散させることを目的とする。

（目標の達成度を示す指標と実績）

指標名	事業開始前	R6年度	R7年度	R8年度	終期目標	達成率
	(R)	実績	目標	目標	(R)	
入場者数		86,605	34,000	35,700		105%

○指標を設定することができない場合の理由

（これまでの取組内容と成果）

令和5年度	<p>○取組内容</p> <p>② ワークショップ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ワークショップ「うずまきに魅せられて」 講師 アーグネス・フス（ハンガリー現代陶芸展出品作家） 令和5年6月17日（土） ・ワークショップ「ハンガリーのスープ」 講師 ラーツ・ゲルゴ（駐日ハンガリー大使館） 令和5年6月3日（土） ・ワークショップ「リユースに挑戦！ふわふわフリンジバッグをつくろう」 指導・企画 アンファッションカレッジ 令和5年10月28日（土） <p>③その他催事関連</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ハンガリー・岐阜茶会 令和5年5月20日（土） ・ミュージアムコンサート「ハンガリーのしらべ」 令和5年6月18日（日） <p>④広報関係</p> <ul style="list-style-type: none"> ・Google Mapを活用した展覧会告知 ・印刷物制作（イベント案内チラシ）
-------	---

令和5年度	<p>○成果</p> <ul style="list-style-type: none"> ・全国に魅力ある事業を発信することによって、当施設の存在を広く知らせることが、岐阜県と県の誇る文化、地場産業のPRにつながる。 ・陶芸と他ジャンル（著名人、美術家、音楽家、茶・食文化、服飾専門学校等）とを結びつけることによって、これまで訪れたことのない新しい来館者を集め、陶芸文化に接してもらう機会を作ることができた。 ・引き続き分野横断的な事業を実施することにより、新規来館者が見込めるほか、将来的に当館や当地域における幅広い交流のきっかけを作ることができる。 ・様々な視点からやきものを捉えた催事を実施することにより、やきものが常に社会や文化、生活と深く結びついていることを深く理解する機会となる。
令和6年度	<p>○取組内容</p> <p>① 講演会等</p> <ul style="list-style-type: none"> ・講演会「人間国宝 荒川豊蔵の作品世界とその魅力」 講師 唐澤昌宏（国立工芸館館長） 令和6年9月22日（日・祝） <p>② ワークショップ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ワークショップ「いろいろやきものいいかんじ」 講師 小平健一（陶芸家） 令和6年7月20日（土）、8月17日（土） ・ワークショップ「うるわしうるし継、いろいろ色漆仕上げ体験」 講師 加藤豊子（陶磁器ガラス等の修復士） 令和7年1月19日（日） <p>③ その他催事関連</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「生誕130年荒川豊蔵展」記念呈茶 席主 豊場佳子 令和7年10月5日（土）、6日（日） ・伊藤慶二インタビュー動画製作（対講演代替） <p>④ 広報関係</p> <ul style="list-style-type: none"> ・Google Mapを活用した展覧会告知 ・印刷物制作（イベント案内チラシ） <p>○成果</p> <ul style="list-style-type: none"> ・全国に魅力ある事業を発信することによって、当施設の存在を広く知らせることが、岐阜県と県の誇る文化、地場産業のPRにつながる。 ・陶芸と他ジャンル（著名人、美術家、茶・食文化等）とを結びつけることによって、これまで訪れたことのない新しい来館者を集め、陶芸文化に接してもらう機会を作ることができた。 ・引き続き分野横断的な事業を実施することにより、新規来館者が見込めるほか、将来的に当館や当地域における幅広い交流のきっかけを作ることができる。 ・様々な視点からやきものを捉えた催事を実施することにより、やきものが常に社会や文化、生活と深く結びついていることを深く理解する機会となる。
	<p>指標① 目標： ____ 実績： ____ 達成率： ____ %</p>

2 事業の評価と課題

(事業の評価)

<p>・事業の必要性(社会情勢等を踏まえ、前年度などに比べ判断) 3:増加している 2:横ばい 1:減少している 0:ほとんどない</p>	
(評価) 3	<p>・世界の陶磁器を有する当館の特性を、様々なジャンルとの交流を通して広くPRすることによって、新しい来館者を獲得することができる。 ・多様な催事を通じて、来館者の目を展示そして陶磁文化に向けることにより、将来的に当地域の文化・地場産業の振興・知名度向上へ繋がることを期待できる。</p>
<p>・事業の有効性(指標等の状況から見て事業の成果はあがっているか) 3:期待以上の成果あり 2:期待どおりの成果あり 1:期待どおりの成果が得られていない 0:ほとんど成果が得られていない</p>	
(評価) 2	<p>・陶芸と他ジャンルとを結びつけることによって、これまで訪れたことのない新しい来館者を集め、陶芸文化に接してもらう機会を作ることができる。</p>
<p>・事業の効率性(事業の実施方法の効率化は図られているか) 2:上がっている 1:横ばい 0:下がっている</p>	
(評価) 2	<p>・近年は、多くの場合、各催物を展覧会に関連させることによって、来館者が催物によって展示の理解を深められるように配慮し、集客面でも展覧会と催物の双方から来館者を呼ぶことを目指している。</p>

(今後の課題)

<p>・事業が直面する課題や改善が必要な事項</p> <ul style="list-style-type: none"> ・催事の内容について、一般の人々の興味関心をリサーチしながら、広い視野で内容の充実を図り、多様な関心に応える催事を計画していくことが必要である。 ・新型コロナウイルス感染症対策対応として実施してきたオンラインの活用については、諸事情により来館ができない潜在的な利用者に向けて、今後もオンライン上の催事など新たな方向性を検討、実施していくことが必要である。

(次年度の方向性)

<p>・継続すべき事業か。県民ニーズ、事業の評価、今後の課題を踏まえて、今後どのように取り組むのか</p> <ul style="list-style-type: none"> ・常に新しい情報を収集しながら、陶芸と隣接ジャンルとの交流を継続的に行うことによって、より広いネットワークを形成し、新たなネットワークを生かして次なる事業を計画、継続していく。 ・講演会とワークショップを中心に、より魅力的な催物の企画に努める。

(他事業と組み合わせて実施する場合の事業効果)

<p>組み合わせ予定のイベント 又は事業名及び所管課</p>	【○○課】
<p>組み合わせる理由 や期待する効果 など</p>	